

第 10 回こども急性疾患学寄附講座（神戸市）公開講座

1. テーマ：「こどもたちの健やかな成長と健康を守るために」
2. 日 時：2014 年 6 月 21 日（土）13：00～14：30
3. 場 所：神戸こども初期急病センター なぎさホール
4. 次 第

1) あいさつ

2) 公開講座

①乳幼児健診 Q&A ～お母さんたちの素朴な疑問から～

講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
特命講師 森貞 直哉

②こどもの蕁麻疹

講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
特命助教 忍頂寺 毅史

③予防接種でこどもを病気から守ろう！～基本と最新情報～

講師 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
特命助教 久保川 育子

乳幼児健診 Q&A

～お母さんたちの素朴な疑問から～

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
特命講師 森貞 直哉

こどもが健やかに成長することは、すべてのお父様お母様にとってとても大切なことです。わが国ではこどもの成長を見守ることを目的として乳幼児健診が広く行われています。一般には生後 4 ヶ月、1 歳 6 ヶ月、3 歳で行われますが、その他 1 ヶ月健診、9 ヶ月健診、5 歳児健診が行われることがあります。

本日はこれら健診で私たち小児科医がしばしば受ける、お父さんお母さんたちからの質問を集めてみました。

こどもの蕁麻疹

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
特命助教 忍頂寺 毅史

蕁麻疹は日常比較的よくおこる病態です。多くの場合アレルギーの関与を考えるのですが実際原因は多種多様であり、特に小児では風邪のような感染症がきっかけでよく起こります。蕁麻疹が起こった時には皮膚だけでなく、意識状態、呼吸の様子や、下痢嘔吐などのおなかの症状も確認する必要があります。それらを認めた時は命に関わるアレルギー反応である「アナフィラキシー」になっている可能性があり早急な処置が必要なこともあるからです。本講演では蕁麻疹とアナフィラキシーの病態・原因・検査・治療や予防の実際とピットホールを、実際に起こった事件例などを紹介しながらお話ししたいと思っています。

予防接種でこどもを病気から守ろう！

～基本と最新情報～

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門
久保川 育子

こどもの病気、特に感染症は予防が第一です。乳幼児期には、病気に対する抵抗力(免疫)が未発達なため、さまざまな感染症にかかります。そして、感染していくことで免疫をつけながら成長して行きますが、時には重症で、確実な治療法がなく深刻な合併症や後遺症を起こしたり、命を落としたりする危険があります。

VPDという言葉をご存知ですか？ VPDとは、「ワクチンで防げる病気(Vaccine Preventable Disease)」の略です。日本では、毎年多くのこども達が、ワクチンで予防できるはずのVPDに感染して、重い後遺症で苦しんだり、命を落としたりしています。数多くある感染症の中で、このVPDはわずかですが、防げる病気だけでも予防して、大切なこどもたちの命を守りましょう。今日は、そんな予防接種の基本と最新情報についてお話ししたいと思います。今回取り上げるVPDは、「B型肝炎」、「麻疹」、「風疹」、「流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)」、「みずぼうそう(水痘)」です。詳しくはお手元の資料を参考にご覧ください。